

コロナの中で

三木造中学校

三年

三組

加藤

愛菜

令和二年、世界各国で流行した新型コロナウイルス。沢山の人々を苦しめたコロナだが、実は悪いことばかりではなかった。むしろ、  
 ほんまかい。今まで、休みたかったと思っていた学校が、

感染防止の為に、休校になった。初めこそ嬉しかったものの、少しずつ受験生としての不安

や、友達に会えない寂しさが増してきた。そして、いつの間にか、早く皆と勉強したいと思うようになった。コロナのおかげで受験生としての自覚を持ち、勉強にもより真面目に取り組みようになったのは、大きな進歩だと思ってる。

休校中、更に私が感じたことは、人々の優しさだ。家にいる時間が増えること、むしろ、SNSを利用する機会が多くなった。そして、  
 しかし、そこで私は沢山の「優しさ」を見た。



のだ。人々の為に、危険な状況にも関わらず、  
最前線に働く医療従事者の方々。彼らを元気に  
つける言葉や演奏。マスクやお金の寄付。そ  
ういふ一人一人の気持ちで日本を、世界を  
支えていなのだ。と改めて実感できた。  
私たちの学校でも、ある一年生のお祖父さ  
んが全校生徒に一箱ずつマスクをプレゼント  
して下さったことがあった。一孫だけじゃな  
く、私たちにも無償で届けてくれた。そう  
思うと、なんだか心が温かくなってきた。よく  
賞えている。  
新型コロナウイルスは、大勢の人の命を奪  
い、悲しませ、苦しませている。そういっ  
た暗いニュースが多い中でも、一つだけ賞えて  
いてほしい。コロナが人々にもたらした悲し  
みの分、もしかしたらそれ以上に、人々の優  
しさや助け合いが生まれている。私たちほそ  
れを感じ、自らも助け合いの一部になる。こ  
のことが、将来に心かすの社会を生きしてい  
くのに役立つことなのではないかと思ふ。